様式第３号

事務事業評価表（令和 2年度）

事業コード	1438	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　●無
		個別事業	企画展の実施		②部課名：生涯学習部・鳥の博物館
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	令和 2年度　～		⑥担当職員数	1 人　（換算人数　0.1 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）3,286 千円　（うち人件費　870 千円） （変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード：51103	重点プロジェクトへの位置づけ：重点なし	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無　部門別計画への位置づけ（計画名）：社会教育推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	学習する場の充実を図るため、公民館や図書館、鳥の博物館、白樺文学館などの施設の充実や、学習の拠点施設の整備を計画的に進めるとともに、学校施設など既存施設の有効活用を推進し、身近な場所で学習ができるようにします。また、湖北地区図書館の整備については、湖北台地区に立地し、老朽化への対応が急が		事業目的	鳥を中心として、地域の自然と生き物について興味を持ち、理解を深め、愛着を感じることができるような企画展を実施する。
(3)事業内容	内　容	自然環境の保全に関心を持ち、理解を深めることができるように、鳥や自然環境に関する季節性や話題性に即したテーマを選び、年３回程度企画展を実施する。合わせて博物館ボランティアや博物館友の会会員の活動成果の発表機会として利用できるように、コーディネートする。		当該年度執行計画	年間を通して３回の企画展を開催する。 我孫子市市政５０周年・鳥の博物館開館３０周年記念事業として、企画展「３０周年特別展示　日本の鳥」を開催する。日本の鳥３８５種の標本を展示し、地域の環境、季節によっても異なる日本の鳥の多様性を紹介する。
				当該年度活動結果指標	来館者数　単位：人　想定値：37,000　実績値：

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	子どもから大人まで幅広い年齢層の市民に、話題性、速報性のある企画展を実施し、鳥や様々な生物を通して環境を考える機会を提供する。	直接	来館者数	人	32,580	37,000
令和 3年度	子どもから大人まで幅広い年齢層の市民に、話題性、速報性のある企画展を実施し、鳥や様々な生物を通して環境を考える機会を提供する。	直接	来館者数	人		39,000
令和 4年度	子どもから大人まで幅広い年齢層の市民に、話題性、速報性のある企画展を実施し、鳥や様々な生物をとおして環境を考える機会を提供する。	直接	来館者数	人		40,000

(7)事業実施上の課題と対応		代替案検討	○有　●無

(8)施行事項

	平成31年度		令和 2年度			令和 3年度		令和 4年度	
	政策 / 内　容	金額(千円)	政策 / 内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 / 内　容	金額(千円)	政策 / 内　容	金額(千円)
実施内容 費　用	嘱託職員報酬	1,400	（経常） 会計年度任用職員（学芸員）報酬	1,400		（経常） 会計年度任用職員（学芸員）報酬	1,400	（経常） 会計年度任用職員（学芸員）報酬	1,400
	嘱託職員社会保険料	273	会計年度任用職員（学芸員）手当等	150		会計年度任用職員（学芸員）手当等	150	会計年度任用職員（学芸員）手当等	150
	嘱託職員雇用保険料	21	会計年度任用職員（学芸員）社会保険料	133		会計年度任用職員（学芸員）社会保険料	133	会計年度任用職員（学芸員）社会保険料	133
	嘱託職員費用弁償	55	会計年度任用職員（学芸員）費用弁償	83		会計年度任用職員（学芸員）費用弁償	83	会計年度任用職員（学芸員）費用弁償	83
	市民スタッフ報償費	84	市民スタッフ報償費	23		市民スタッフ報償費	23	市民スタッフ報償費	23
	消耗品	340	消耗品	350		消耗品	350	消耗品	350
	企画展委託料	100	印刷製本費	177		印刷製本費	177	印刷製本費	177
	印刷製本費	197	企画展委託料	100		企画展委託料	100	企画展委託料	100
予算(決算)額	合　計	2,470	合　計	2,416		合　計	2,416	合　計	2,416

(9)財源内訳

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
国庫支出金	補助率 0 % / 0	補助率 0 % / 0	補助率 0 % / 0	補助率 0 % / 0
県支出金	補助率 0 % / 0	補助率 0 % / 0	補助率 0 % / 0	補助率 0 % / 0
起債	充当率 0 % / 0	充当率 0 % / 0	充当率 0 % / 0	充当率 0 % / 0
一般財源	2,470	2,416	2,416	2,416
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他 / 0	□特会 □受益 □基金 □その他 / 0	□特会 □受益 □基金 □その他 / 0	□特会 □受益 □基金 □その他 / 0

(10)人件費等

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
換算人数(人)	0.2	0.1	0.2	0.2
正職員人件費	1,760	870	1,740	1,740
嘱託職員報酬額	1,672	0	0	0
臨時職員賃金額	0	0	0	0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	4,230	3,286	4,156	4,156
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	0.11千円／人	0.09千円／人		

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	博物館が持っている学習資源を最大限に活用し、市民に情報提供する必要がある。「鳥の科学」、「地域の自然」、「人と鳥とのかかわり」という三つのテーマに沿って魅力ある企画展を実施することで、展示に変化を持たせて何度も足を運んでもらえるような博物館を目指す。	○①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞	○要 ○不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ ＜その他の内容＞	○要 ○不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 工夫の具体的な内容：鳥の博物館友の会との共催の企画展の実施、市民スタッフによる企画展の展示案内や展示交流を実施する。 ＜その他の内容＞	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容） 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ○②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ○不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： □①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している ■⑤その他 取組む内容： ＜その他の内容＞ 多くの市民に事前のシンボルでもある鳥への関心を深めてもらえるようなテーマの企画展を実施する。	実施した具体的な内容 環境への配慮： ○①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ○ 不要
効率性 (1)目標設定は適切か？	現況値(a)(人)：32,580 目標値(b)(人)：37,000 目標値の妥当性のチェック： □①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	達成状況：実績値(f)(人)：　達成率(%)(f/b×100)： ○①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞	○要 ○不要
効率性 (2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円)：3,286　事業費削減額(d)(千円)：944　事業費削減率(%)：22.32 実施予定の対策： □①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 ■②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託 ＜削減の内容＞	実施状況：実績値(g)(千円)：　対事業費(%)(g/c)×100： ○①想定事業費未満 ○②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 事業費の削減対策について： ○①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ○不要
効率性 (3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e)：1,125.99　単位：人　費用単位：10万円 計算方法： ●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：（目標値－現況値）×費用単位／事業費	達成状況：実績値(h)：　対目標値(%)(h/e)×100： ○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞	○要 ○不要

３．事後評価

○現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向